



令和7年9月1日現在	
総世帯数	1,352世帯
総人口	2,318人
男	1,112人
女	1,206人

嗚呼。ふるさと

近くにありて思うもの

天神南小池町 横山 和日光

町の歴史は遠く江戸時代に遡る。享保9年「信府統記」には天神小路として町が形成されたとあり、同13年「松本城下絵図」では下級武士の家が道の北側に、南側には長沢川との間に馬場がある。その名を「天神馬場」と称し、地名として呼ばれた。明治になつてその馬場跡には家ができて現代の町形になる。

明治21年の1月、極楽寺からの出火により町の大半が焼



現在の天神通り

失。その焼け跡から復興し歓楽街となり、27年に天神小路に芸者置屋許可が下りて天神が花街として大いに栄え、大正9年の松本市街明細地図には37軒の料理屋・茶屋・置屋などがあり「花街天神」の名を欲しいままにしたと聞いている。私の子どもの頃の昭和30年にも魚屋が6軒お菓子屋が4軒あり多くの人々の集まる街であった。

朝6時の極楽寺の鐘が鳴り8時の出務時の天神通りは勤労者、学生の通り道として、夕方には三味線太鼓の音が、夜は花街を歩く人の姿が目

残る。天神様の東側に明治43年、深志公園の設立。翌44年に松本第1号の映画館キナパークの開演。昭和3年には天神建国座の映画館ができ市民の憩いの場所であった。

松本の夏祭り最大の天神祭には天神通りを通る松本の舞台は町とは切っても離せない行事である。また、夏の子どもの行事である男子の青山様の神輿の担ぎ手はいくなく、女子のあの郷愁を帯びた「ぼんぼん」とは今日明日ばかり」と唄う子どもは天神町にはもういない。

老いたる者には過ぎにし青春の郷愁を彷彿とさせてくれる街、それが我が天神町である。嗚呼、故郷は近くにありて思うもの。

近くに転がっている

興味深い事

飯田町二丁目町会 小林 実

子どもの頃、自宅の何軒か隣に氷屋さんがあった事を覚えていますが。当時の一般家庭用だったのか、魚屋さん、かき氷屋さん向けなのか分かりません。倉庫の厚い扉の奥から大きく四角い氷を前掛け姿のおじさんが引き出し、鋸で切っていた記憶があります。

先日、新聞で江戸時代には加賀藩の氷を江戸城まで飛脚が運んでいた記事を見て驚きました。金沢から日本海沿いに親不知を抜け、今の上越市から南下して佐久から中山道經由の480kmを昼夜4日掛けて運んだというから気が遠くなりそうです。一体何割の氷が溶けずに江戸まで届いたのでしょうか。大変な警沢品です。

ため市有地になっていると聞き、関連を理解出来た事も感慨深いものです。

松本市資料によれば、飯田町の町名は城主の小笠原氏が飯田から来た際に連れてきた侍衆や町人が住んだのが由来で、鋳物師・紺屋等の職人さんがいて、天保の頃に雛商も始まったそうです。それが連綿と記憶の氷屋さんや今の人形店にも続いているのでしょうか。



精巧に作られた博物館のジオラマ

源智の井戸、榛の木川、番所らしいものが見えます

第24回 第二地区盆踊り大会

8月12日 深志神社境内にて開催



さくらの会の模範踊り



照明が新しくなって踊りやすくなりました



当たれば嬉しいスイカ割り



長蛇の列ができた抽選会



子どもたちも神楽殿で踊りました

天気が心配だった今年の
盆踊り大会

「雨で中止になったことは
ない!」というジンクス
どおり、無事開催できま
した



綿あめが大人気だった出店



子ども映画会の様子

今回の子ども映画会では八丈島を舞台に、世界中の警察が持つ防犯カメラを繋ぐための海洋施設の女性エンジニアが「黒の組織」に誘拐される事件が発生。この事件を発端に、拉致された少女・灰原をコナンが救出に向かうストーリーの作品を子ども5人・大人10人で鑑賞しました。

にこにこサロン
子ども映画会を実施して
第二地区生活支援員 中島 雅子

すすき川

この紙面が皆様のお手元に届く頃にはNHKテレビで放送中の「あんぱん」もクライマックスを迎える頃と思われます。このドラマのモデルとなっているのは漫画家やなせたかし(本名 柳瀬 嵩)さんの奥様「暢(のぶ)」さんです。その暢さんに誘われてやなせ事務所の秘書になられたのが越尾正子さんです。

たまたま私は、NHKの「ラジオ深夜便」という番組で越尾さんのインタビューの模様を聴きました。

越尾さんは、暢さんから貯金通帳や、印鑑が入った金庫の鍵を預かり、お金の管理を任されていたとのこと。

あるとき、越尾さんは暢さんに「もし私が悪い女だったらどうしますか」と聞いたそうです。すると暢さんは、「そのときは私に人を見る目がなかったかと思ひ諦めます」と答えたとのことです。

通帳と印鑑を預けて何人もの有名人が痛い目にあっています。最近では、かの大谷翔平選手が想像を絶する多額な被害に遭われました。

改めてやなせ暢さんの凄さに驚嘆しています。

(川上)